

振り返り記述時に教訓の活用場面を考えることで 発生する認知プロセスの分析

Analysis of the Cognitive Processes that Occur when Thinking About Situations
in which Lessons Learned can be Applied when Describing Reflections

政岡祐輝* 久保田真一郎* 都竹 茂樹**
Yuuki Masaoka* Shin-Ichiro Kubota* Shigeki Tsuzuku

* 熊本大学大学院社会文化科学教育部 教授システム学専攻

* Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

** 大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター

** Center for Student Success Research and Practice, Osaka University

〈あらまし〉 記述式の内省支援ツールの項目として、「学びの活用場面を考える」という学習活動を付与することで、それまでに問題となっていた「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びを活かせていない」という状況の解決が示唆された。そこで、ツールへの記述内容を質的分析手法である SCAT を用い、学びの活用場面を考えることで、どのような認知プロセスが発生し、学習転移に影響しているのかを分析した。結果、活用場面を考えることでスキーマの形成が促進され、学習転移に影響したという示唆が得られた。一方で、失敗経験の原因に対する批判的分析ができていない場合は、教訓の適応時に支障が生じることも示唆された。

〈キーワード〉 内省、教訓、活用場面

1. はじめに

医療現場では患者の治療やケアが優先されるために内省支援にあてる機会の確保が難しい。看護師である上司や教育担当者は必ずしも教育の専門家ではなく、内省を支援する知識やスキルを有しているとは限らない、といったことが課題となる。これらの課題を踏まえ、新人看護師を対象に独習型の記述式内省支援ツール(以下ツール)を導入していた。しかしながら、ツールを用いる中で、「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びを活かせていない」という学習転移の問題が発生するケースが多くみられた。そのため、ツールの記述プロセスの中に、「学びの活用場面を考える」という学習活動を加える再設計を行った結果、学習転移の問題解決に対する示唆が得られた(表1)(政岡 2017)。そこで、「学びの活用場面を考える」という学習活動で、どのような認知プロセスが発生しているのかを再分析することとした。

2. 目的

ツールにおける「学びの活用場面を考える」という学習活動によって、どのような認知プロセスが発生し、学習転移に影響しているのかを分析する。

表1 ツールの記述項目

1. 今週/今月の経験したこと、印象に残っていること、受けた指導内容を記載してください。
2. 1. で記載したものを振り返って、どう感じましたか? 上手くいったところと上手くいかなかったところを記述してください。
3. 1. 2. を踏まえ、自分のどんなことが足りないと考えますか? その原因を分析してみてください。
4. 1. ~3. を踏まえ、学んだことは何ですか? どんな行動や考え方、姿勢が必要だと考えますか?
5. 4. の学びを活かす場面を考えてみてください。
6. 3. で考えた原因(課題)を解決するために、取り組むべきことを考え記載してください。なお、いつまでに・どこで・誰と・何をどうするかまで、具体的に記載してください。

3. 方法

同時期に記述された新人看護師7名のツールへの記述内容、ならびに記述後1週間の実践場面での学びの適応状況の評価結果をデータとし、大谷(2011)が開発した質的析手法の SCAT; Step for Coding and Theorization を用いる。SCAT 分析にて4ステップのコーディングを行い、テーマ・構成概念を紡いだストーリーラインを記述し、考察として「学びの活用場面を考える」ことが学習転移にどの

ようにつながるかの「理論記述」を生成する。

4. 結果・考察

SCAT より導き出された、7名のストーリーライン結果のうち4名を表2に示す。Aは、術中心停止遭遇時の失敗経験より教訓を得て、活用場面を考えることで、術中心停止発生のリスク構造は、すべての手術症例に存在するという事を認知している。これにより術中心停止を経験した文脈以外においても教訓を適応できたと考えることができる。Bは、教訓を活かす場面に遭遇はしていない。しかし、活用場面を考えることで、「コミュニケーションを図る」という教訓は、新人看護師同士で担当する手術症例だけでなく、先輩看護師と担当する手術症例においても求められる構造であることを認知できている。AとBのように、振り返った出来事とは異なる場面を考えることができ、学習転移がみられた事例は他に2例ある。振り返った経験が単一経験か、複数経験の違いがあるが、学習転移がみられたのは、「活用場面を考える」ことが、教訓の利用に関するスキーマ形成を促進したためと考えられる。一方で、Cは失敗経験の

原因を焦りと記述しているが、その焦りの発生に対する批判的分析の記述はみられない。そのため、教訓として記述した事項を適応する際に焦るということが改善されず、教訓が一部適応しきれない結果となった可能性がある。失敗の原因分析の記述がない事例が他に1例あり、Cと同様に一部適応できていなかった。これらから学習転移には、批判的分析が重要であることが示唆される。またDでは、「活用場面を考える」で、失敗原因の分析を深めることとなり、実践場面で改善がみられたという結果が得られた事例もある。

参考文献

- 大谷尚（2011）SCAT：Steps for Coding and Theorization—明示的手続きで着しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—。感性工学，10(3)，pp 155-160
- 政岡祐輝（2017）活用画面の類推による学習転移の促進を目指した内省支援ツールの再設計—看護師を対象として—。熊本大学大学院教授システム学専攻提出修士論文

表1 振り返り記述のストーリーライン一例

A	初めて術中心停止に遭遇した際に起こした薬剤に関するインシデントを振り返り、原因が医療安全に対する自己認識の甘さにあると分析した。そして、緊急事態発生時には迅速に応援要請すること、薬剤準備や手術室の資機材の準備などの定型的業務においても緊急事態を想定した準備をしなければならないこと、わからないことは事前確認しておくことを教訓として得た。教訓の活用場面として、すべての手術症例での手術室準備や体位固定、薬剤準備などの定型的業務を挙げている。その結果、記述後の実践で教訓を適応することができた。
B	新人看護師同士で手術を担当した際に、円滑なコミュニケーションが図れず同じ動きをしてしまうことで無駄や抜けが発生してしまったという上手くいかなかった出来事を振り返り、原因は新人看護師同士でのコミュニケーション不足であると分析した。分析の結果、意識的に声を掛け合いコミュニケーションを図ることを教訓として得た。教訓の活用場面として、新人看護師同士で担当する手術症例、先輩看護師と担当する手術症例を挙げている。しかしながら、記述後の実践で活用場面とした場面には遭遇はしなかった。
C	焦りで実施すべきことがわからなくなる、介助が間に合わなくなるという上手く行かなかった出来事を振り返り、術野や器械出し担当者の状況を把握し、必要となる行動や配慮ができていないという分析をした。分析結果より、的確なタイミングで材料を提供するために術野を見ながら行動することや、外回り時も、器械出しの視点で状況を判断することを教訓として得た。教訓の活用場面として、器械出し看護師や外科医師の声を拾える位置にいることや、記録中にもモニターやメンバーの声に耳を傾けておくこと、手術進行の中で、特に術野の近くにいるべきポイントがあることを挙げている。結果、記述後の実践で教訓を適応しきれなかった。
D	心臓外科の器械出し看護において、術野と器械台の位置関係による介助のしづらさ、創を閉じる際に介助や縫合糸の準備や回収処理が間に合わない、介助手順を間違えてしまう、といった出来事を振り返り、その原因が術野状況を確認できておらず、声の小さいことによる看護師の連携不備にあると分析した。分析の結果から、手順を踏まえた器械・材料の準備、医師や外回り看護師との連携では、大きな声でのコミュニケーションを意識することを教訓として得ている。教訓の活用場面を考える中で、術野状況を確認できていない原因が、身体の向きや縫合糸の処理にかかる時間にあると分析を深めた。その結果、記述後の同じ場面で改善が図れた。